

史跡 斎宮跡

平成11年度現状変更緊急発掘調査報告

平成13(2001)年3月

明和町教育委員会

序

「幻の宮」と呼ばれていた斎宮が発見されてから約30年が経過しました。この間、地元住民方々の協力を得ながら、斎宮跡究明の発掘調査事業及び保存のための土地買上げ事業が計画的に進められてまいりました。

また、これらの成果をもとに昭和57年度から面的に土地買上げが進んだ地区から随時史跡整備が進められ、来年3月には「いつきのみや歴史体験館」や「斎宮跡1/10史跡全体模型」を中心とした史跡中央部と「斎宮歴史博物館」を中心とした史跡西部をあわせて約20haが完了することとなります。

この整備された公園や施設は、すでに遠足などの校外学習や斎王まつりなどのイベントなどに活用されていますが、「総合的な学習」や「生涯学習」が注目されている昨今、町民をはじめ県内外から訪れる多くの人々に幅広く親しんで利用してもらうため、史跡斎宮跡をさらに魅力のあるものにする必要があると考えています。町といたしましては、斎宮跡をどのように活用することができるか、また活用するための受け入れ態勢をどのように整備するかなどを早急に検討する時期になってまいりました。

さて、このように斎宮跡の保護・保存・活用が進められている一方で、137.1haに及ぶ広大な史跡内に約600世帯に及ぶ住民が生活していることから、生活に結びつく現状変更等許可申請が毎年数多く提出されます。

この報告書は、平成11年度に提出された37件の申請の中で事前発掘調査が必要であった8件と浄化槽等の立会い調査7件についての結果をまとめたものであります。

現状変更に伴う調査は、第128-5次調査のように比較的まとまったものや、第128-4次調査のように幅が0.7mと狭く延長が約120mに及ぶもの、また浄化槽のような非常に小さなものなど規模はさまざまですが、調査箇所は広い史跡内を点在していることから、計画調査では得られない貴重な資料を与えてくれるものであり、これらの成果の積み重ねが斎宮跡を解き明かすものと思っております。

最後になりましたが、発掘調査にご理解とご協力いただきました地元地権者のみなさま、また、発掘調査から報告書作成に至るまでご協力いただいた斎宮歴史博物館調査研究グループの方々にここに厚くお礼申し上げます。

平成13（2001）年3月

明和町教育委員会

教育長 田 端 明

例 言

1 本書は、明和町教育委員会が平成11年度に実施した史跡斎宮跡の現状変更緊急発掘調査の結果をまとめたものである。

なお、第128-1、2次調査は、国庫及び県費の補助金を受けて実施したものであり、第128-3次から第128-7次調査は、公共事業として実施したもので、事業者が費用を負担した。

2 調査は、明和町教育委員会が調査主体となり、斎宮歴史博物館調査研究担当及び明和町教育委員会斎宮跡課が現地調査を担当した。

3 遺構の実測にあたっては、国土調査法による第Ⅵ座標系を基準とし、方位は座標北を用いた。

4 遺構の時期区分は、「斎宮跡の土師器（三重県斎宮跡調査事務所1984）」による。

5 遺構表示は、次のとおりである。

S B；竪穴住居・掘立柱建物 S A；柵 S E；井戸 S K；土坑 S D；溝 S F；道路
S X；その他

6 特に標示がない限り、遺物の実測図は実物の4分の1、遺物写真は約3分の1である。

7 調査の実測図・写真等の関係書類及び出土遺物は、斎宮歴史博物館で保管している。

8 現地の発掘調査及び本書の作成には、斎宮歴史博物館調査研究担当の駒田利治、上村安生、大川勝宏、西村美幸と明和町教育委員会斎宮跡課の中野敦夫、瀬田敏彦、宇都宮英治が担当した。

また、遺物整理等にあたっては、島村紀久子、西村秋子、杉原泰子、八木光代、池野香代があたり、大西瞳（花園大学学生）、中島沙恵（佛教大学学生）の参加を得た。

目 次

1	前 言	1
2	第128-1次調査	2
3	第128-2次調査	3
4	第128-3次調査	4
5	第128-4次調査	6
6	第128-5次調査	6
7	第128-6次調査	10
8	第128-7次調査	10
9	第128-8次調査	11
付篇1	史跡現状変更等許可申請	12
付篇2	立会い調査	14
	第128-9次調査	14
	第128-10次調査	14
	第128-11次調査	15
	第128-12次調査	16
	第128-13次調査	17
	第128-14次調査	17
	第128-15次調査	18
	報告書抄録	20

表・挿図目次

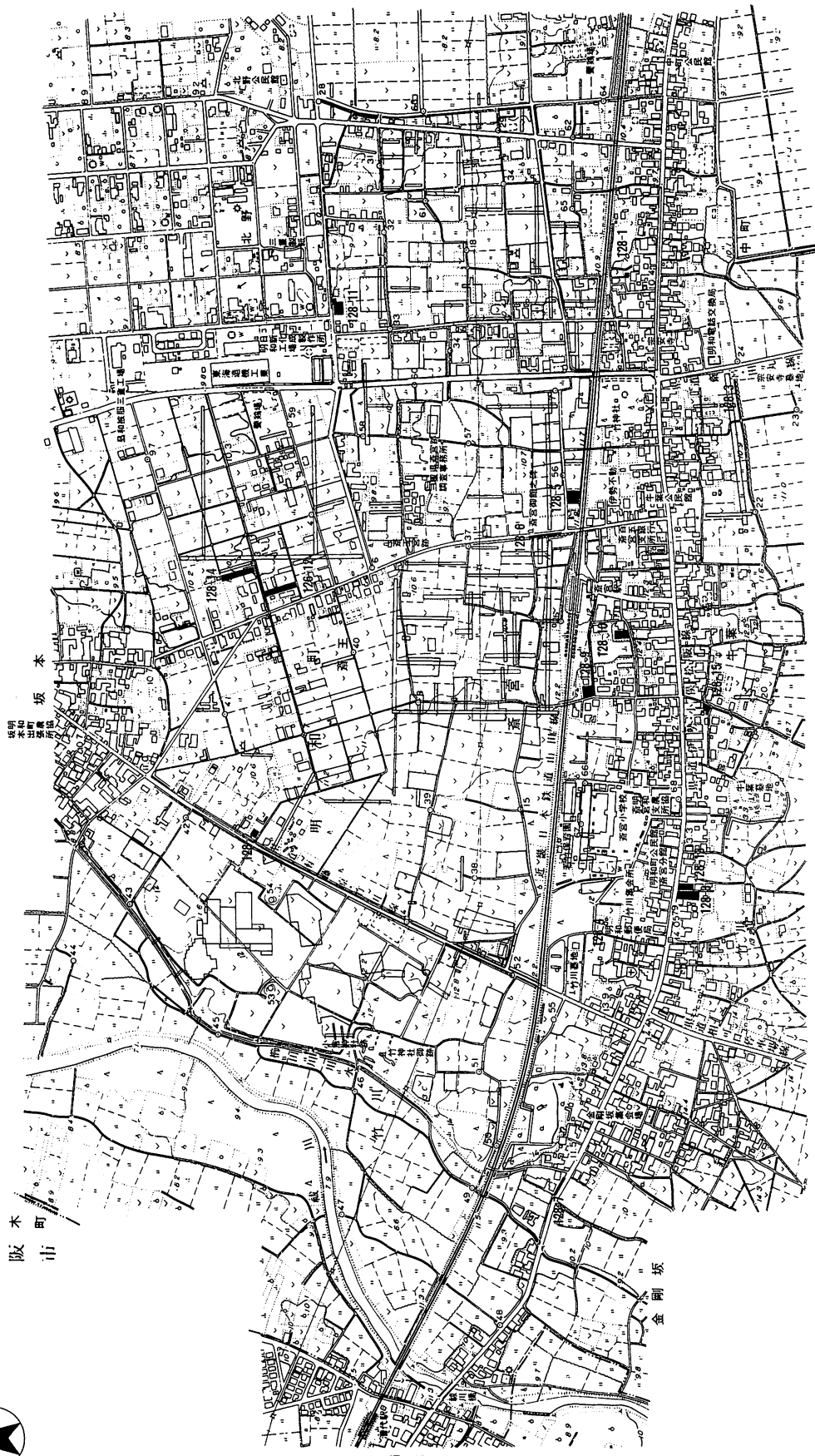
[表]	1	史跡現状変更等許可申請の推移	1
	2	平成11年度現状変更等許可申請一覧表	13
	3	第128次調査出土遺物観察表	19
[図]	1	発掘調査地区位置図 (1:10,000)	
	2	第128-1次調査 調査区位置図 (1:5,000)	2
	3	“ 遺構実測図 (1:200)	2
	4	第128-2次調査 調査区位置図 (1:5,000)	3
	5	“ 遺構実測図 (1:200)	3
	6	“ 遺物実測図 (1:4)	3
	7	第128-3次調査 調査区位置図 (1:5,000)	4
	8	“ 遺構実測図 (1:200)	5
	9	“ 遺物実測図 (1:4)	5
	10	第128-4次調査 調査区位置図 (1:5,000)	6
	11	第128-5次調査 調査区位置図 (1:5,000)	7
	12	“ 遺構実測図 (1:200)	8
	13	“ 遺物実測図 (1:4)	9
	14	第128-6次調査 調査区位置図 (1:5,000)	10
	15	第128-7次調査 調査区位置図 (1:5,000)	10
	16	第128-8次調査 調査区位置図 (1:5,000)	11
	17	第128-9次調査 調査区位置図 (1:5,000)	14
	18	第128-10次調査 調査区位置図 (1:5,000)	15
	19	第128-11次調査 調査区位置図 (1:5,000)	15
	20	“ S K 8028実測図 (1:200)	16
	21	“ 遺物実測図 (1:4)	16
	22	第128-12次調査 調査区位置図 (1:5,000)	16
	23	第128-13次調査 調査区位置図 (1:5,000)	17
	24	第128-14次調査 調査区位置図 (1:5,000)	17
	25	“ 調査区実測図 (1:200)	18
	26	第128-15次調査 調査区位置図 (1:5,000)	18
	27	“ 遺構実測図 (1:200)	18

写真図版

PL 1	第128-1次調査	上; 調査区全景	下; S A 6790、S D 8183
PL 2	第128-2次調査	上; 調査区全景	下; 調査区近景
PL 3	第128-3次調査	上; 調査区北部全景	下; 調査区南部全景
PL 4	第128-5次調査	上; 調査区全景	下; 調査区全景



高木町
松阪市



稲木町
松阪市



第1図 発掘調査地区位置図(1:10,000)

1 前 言

斎宮跡では、史跡指定以来21年間で941件の史跡現状変更の許可申請が出されており、平成11年度は37件の申請が提出された。その内容は、史跡内住民による住宅や農業用倉庫の増改築あるいは道路や排水路の改修・新設であり、申請内容に応じ、発掘調査あるいは立会い調査等を実施し、遺構の確認とその保護に努めている。排水路の改修あるいは新設の場合、周辺地の調査結果から遺構検出面までの深さを参考に調査あるいは立会い調査としてきたが、今年度から排水路事業については、すべて事前に発掘調査とすることとした。また、史跡内の住民生活にとって公衆衛生上推進されている浄化槽の設置は近年急速に普及してきており、下水道事業開始までの暫定措置として、立会い調査を実施しているが、その調査結果については、これまで未報告であったが、今年度から本報告書に掲載することとした。

第128-1次調査は、近鉄線以南で調査例が少ない地区での貴重な調査であり、斎宮跡内院地区内における南北方向の外郭柵列のうち、後出する柵列の延長部分の32間から34間分の2間を確認し、更に南に延びることが判明した。また、先行する柵列は、今回の調査区でも認められず、近鉄線以北の第119次調査区内で途切れる間仕切りのものと判断される。

第128-2次調査は、博物館前の塚山古墳群周辺で実施し、溝1条を確認したにとどまる。

第128-3次調査は、斎宮跡方格地割の区画間地区での調査であったが、調査区が狭小であったため、区画施設の確認にはいたらなかった。平安時代の溝等を確認し、調査事例の少ない地区ではあるが、遺構の保存状況が良いことが確認できた。

第128-5次調査も、方格地割の区画施設想定地区での調査であり、奈良時代の幅13.3mの区画道路と南北両側溝を想定どおりに確認し、更に平安時代後期の幅約8mの道路と南北両側溝を確認した。

第128-4、6、7次調査は、町道の側溝改修等に伴う調査であるが、ともに改修工事が遺構検出面に達しないので、立会い調査と土層断面図等の記録作成にとどまった。また、個人住宅等の浄化槽埋設に伴う調査は調査に制約が大きいですが、立会い調査を行い遺構の記録保存に万全を期した。

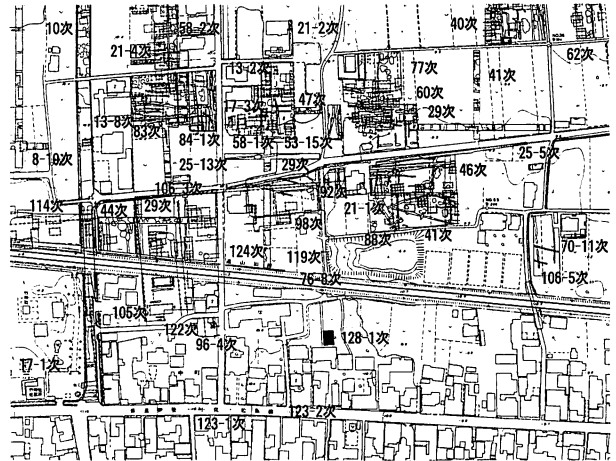
これら現状変更に伴う緊急発掘調査は、様々な制約から必ずしも十分な調査とは言えない面もっており、史跡の保存にとっても少なからず問題を抱えているが、斎宮跡の解明にとって一助となっており、調査上の制約や調査実施上の困難を解決しなければならない。(駒田利治)

年度	現状変更申請数	発掘調査件数	調査面積 (m ²)	補助金調査件数	同調査面積 (m ²)
S 54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,820	7	1,131
H元	57	16	7,091	9	1,061
2	58	8	1,397	5	914
3	46	3	1,550	1	1,190
4	41	6	895	5	825
5	48	8	1,670	6	1,090
6	35	6	1,360	4	1,032
7	39	2	587	1	480
8	47	6	709	4	613
9	39	6	832	2	452
10	28	4	882	2	396
11	37	8	816	3	186
計	941	206	50,531	138	19,034

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移

2 第128-1次調査（6ADP）

調査場所 多気郡明和町斎宮字鍛冶山2737-1
 原因 農業倉庫の建設
 調査期間 平成11年6月8日～6月18日
 調査面積 32m²



第2図 第128-1次調査 調査区位置図（1：5,000）

1) はじめに 今回の調査は、県道伊勢小俣松阪線（旧参宮街道）沿いの住宅密集地で住宅の北側に農業倉庫を新築するものである。この地区ではこれまで調査区の北側約50mの地点で第119次調査が実施され、斎宮跡の発掘調査で最大規模の掘立柱建物が検出され

るなど、近鉄山田線以北では調査が進み、外郭柵列や規則的に配置された大型掘立柱建物、内郭柵列の存在が確認されているが、鍛冶山西区画の南東部では初めての調査であり、その様相の解明が期待された。

2) 調査概要

イ 遺構

調査地の現況は畑地であり、東西4m×南北8mの調査区を設定した。遺構検出面までの深さは南側で0.36m、北側で0.30mであった。

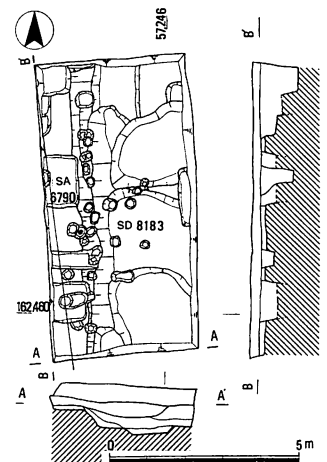
今回の調査で検出した遺構には、柵列1条、溝1条がある。柵列はこれまで北側の調査で確認されているSA6790の延長にあたるもので、柱掘形を3穴検出した。柱掘形は、調査区の西側へ続いており、柱掘形規模の確定はできなかったが、一辺1.1m～1.3mの方形と推定される。SD8183は攪乱土坑と重複しており、溝の幅は確定できなかったが、溝底では幅約1mである。

ロ 遺物

今回の調査で出土した遺物は少なく、整理箱で3箱分である。SA6790の柱掘形からは土師器細片が出土しているが、いずれも時期決定の根拠とはなりにくい。また、SD8183は攪乱のため、近世以降の遺物を多く含むが下層からは16世紀代の土師器皿・鍋・羽釜が出土している。

ハ まとめ

今回の調査では鍛冶山西区画の外郭東辺柵列SA6790の延長にあたる柱掘形を検出した。SA6790の北端から32間目から34間目にあたる。34間目の柱間は3.3mあり、約11尺に相当する。これまでの第119次調査などで確認されている柱間の2.94mよりやや広い。その要因としては門とか入口とかの可能性もある。また第119次調査で途中までしか検出されなかったSA6770は今回の調査でも確認されなかったため、その機能としては間仕切りの性格が強いものと想定される。

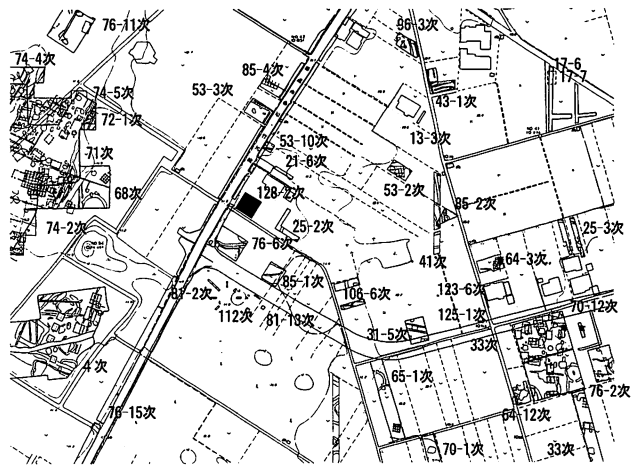


（上村安生）

第3図 第128-1次調査 遺構実測図（1：200）

3 第128-2次調査（6ACA-W）

調査場所 多気郡明和町斎宮字古里3270-4
 原因 個人住宅の新築
 調査期間 平成12年1月17日～1月21日
 調査面積 144m²



第4図 第128-2次調査 調査区位置図（1：5,000）

1) はじめに 今回の調査は、県道南藤原竹川線沿いで住宅の新築を行うものである。史跡西部の古里地区周辺は、奈良時代と鎌倉時代の遺構が多く、今回の調査によりさらなる資料の追加が期待された。

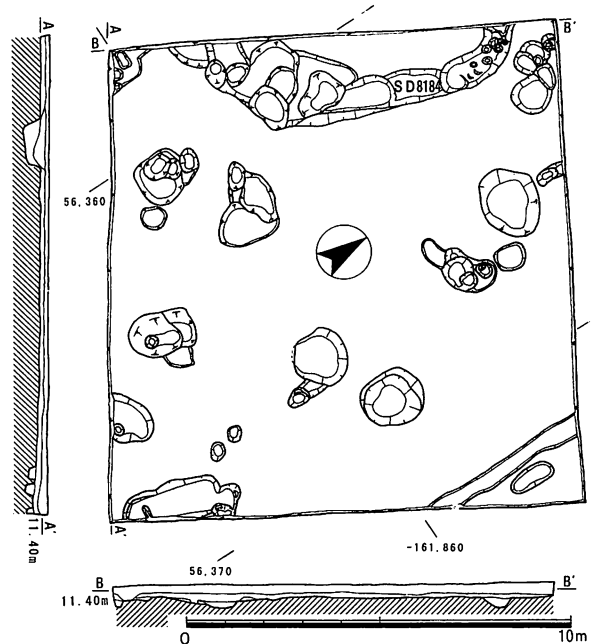
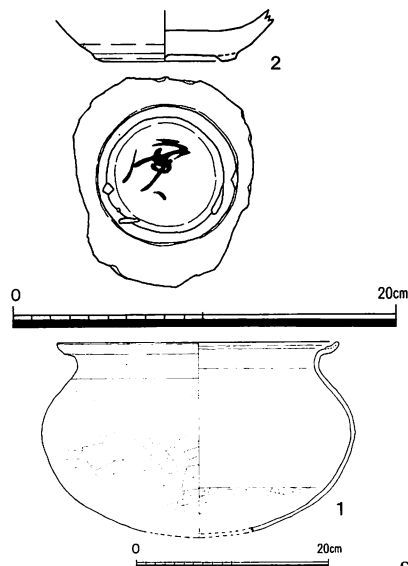
2) 調査概要

イ 遺構 調査区は一辺12mのほぼ正方形に設定した。遺構面までの深さは南側で約0.3m、北側で約0.4mであった。検出した遺構には、S D8184がある。S D8184は調査区の西端で検出し、南北方向に6m延び、その後南北両極でゆるやかに西に曲がるコ字状をなす溝である。幅は約0.45m、深さ0.1～0.15mで、断面はU字状をなしている。この溝は、平成元年度に調査区の西側で実施した第81-2次調査で検出されたS D6323に続く可能性がある。

ロ 遺物 今回の調査で出土した遺物は、整理箱2箱と少ない。S D8184からは、時期不明の土師器細片が1点のみ出土している。他に、主な出土遺物として、土師器杯・皿・甕・鍋（1）・山茶碗（2）・青磁碗がある。山茶碗（2）には、底部に「廣」あるいは「康」と判読される墨書がある。

ハ まとめ 今回の調査では、S D8184が検出された以外は攪乱土坑しか検出されなかった。S D8184をS D6323の延長と考えると、この溝は方形状遺構となる。調査区の南側には塚山古墳群もあり、S D8184は古墳の周溝という可能性もある。

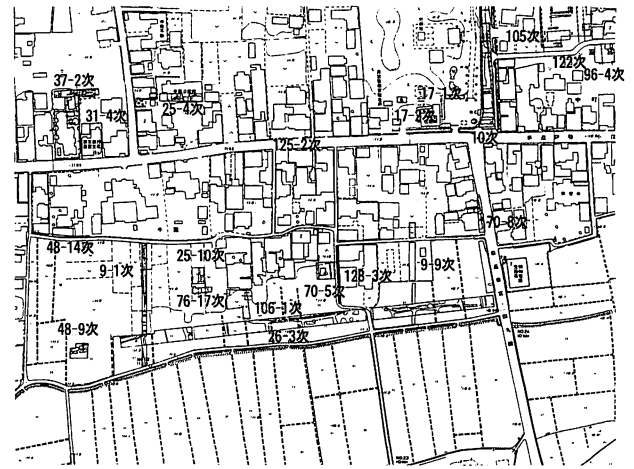
（宇都宮英治・上村安生）



▲第5図 第128-2次調査 遺構実測図（1：200）
 ▲第6図 第128-2次調査 遺物実測図
 攪乱土坑：1（1：8）、包含層：2

4 第128-3次調査（6A EW-ACM）

調査場所 多気郡明和町斎宮字鈴池地内
原因 側溝の新設
調査期間 平成12年1月18日～2月1日
調査面積 41m²



第7図 第128-3次調査区 調査区位置図(1:5,000)

1) はじめに 今回の調査は、旧参宮街道から南にほぼ方位に沿って伸びる町道の中央部に側溝を新設するものである。周辺では、西隣の第70-5次調査で奈時代中期の掘立柱建物、平安時代の溝2条、南側の第27-3次調査で方格子地割南辺の東西道路の北側溝と考え

られる溝が確認されている。また、今回の調査区は、方格子地割の鈴池西・同東区画の区画間道路に想定され、調査区の南端では、方格子地割南辺の東西道路に関連する遺構が確認されることが期待される位置である。

2) 調査概要

イ 遺構

調査は、排水溝の幅に合わせ、幅0.8m、延長46mにわたって実施した。遺構検出面までの深さは約0.5mである。基本的層序は第Ⅰ層アスファルト・砕石、第Ⅱ層黒褐色粘質土（置土）、第Ⅲ層黒褐色粘質土に浅黄橙色粘土粒が混入したもの（包含層）、第Ⅳ層浅黄橙色粘土（地山）であり、第Ⅳ層上面で遺構を検出した。第Ⅳ層は地下水位の関係か、SK8191の北側からSD8193の南側まで還元され、灰白色を呈していた。

検出した遺構には、平安時代後期の土坑3基、溝3条、鎌倉時代の土坑2基、溝2条がある。また、SK8191の北側以南は以前水田であった場所で、南下がりの緩やかな落ち込みになっている。

平安時代 SK8188は調査区中央付近で検出した。長辺1.2m、短辺0.6m以上、深さ0.5mの楕円形の土坑で、ロクロ土師器の皿や黒色土器片が出土している。SK8189・SK8190は、SK8188の南で検出したもので重複関係からSK8189はSK8190より新しいと考えられる。いずれも後期の遺物が出土している。

SD8185～8187は、調査区北部で検出した。いずれも黒色粘質土を埋土とする。SD8185・SD8186は調査区に斜行する。SD8186は、SD8185の下部で検出したもので、底は凹凸がある。SD8187は重複関係からSD8186より古いものと考えられる。いずれも平安時代後期の土師器杯・皿、灰釉陶器片が出土している。

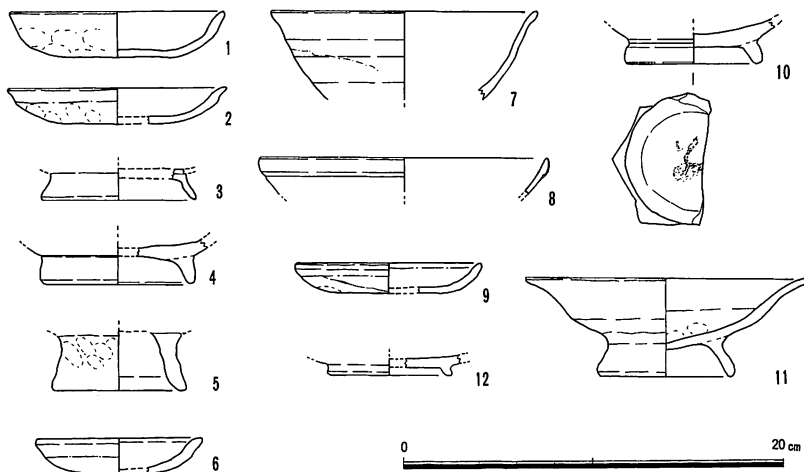
鎌倉時代 SK8191・SK8192は調査区南部で確認され、重複関係からSK8191は、SK8192より新しいと考えられる。

SD8193・SD8194は、調査区の南端付近で検出した調査区に直交する溝である。SD8193は幅0.8m、深さ0.2mの比較的しっかりした溝である。出土遺物からこの時期のものと考えたが、埋土もSD8185～8187と類似しており、鎌倉時代以前のものである可能性もある。

口 遺物 遺物は、整理箱2箱分が出土した。土師器杯(1)はSK8189から出土した。土師器杯(2)はSK8190から出土した。口径11.4cm、器高1.8cmで、口縁部は屈曲して外反する。(3・4)はSD8185から出土した。土師器台付椀(3)は、椀部と高台部の接合痕跡が残る。(5～8)は、SD8186から出土したもので、土師器台付皿(5)は高い高台をもつ。土師器小皿(6)は口径8.6cm、器高1.9cmで、口縁端部を外反させる。灰釉陶器椀(7)は内外面に灰釉を漬け掛けしている。白磁椀(8)は太宰府編年Ⅱ類(横田賢次郎・森田勉「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集4』1978年)に該当する。(9・10)は、SD8187から出土した。土師器小皿(9)は口径9.8cm、器高1.6cmで、口縁を丸くおさめている。灰釉陶器椀(10)は底部外面に墨書で漢字と思われる1文字が描かれている。口径11.2cm、器高2.4cmで、口縁部は外方へ開く。(11・12)は包含層から出土した。土師器台付杯(11)は高い高台を持つもので、杯部は「く」字状に屈曲し外反する。緑釉陶器椀(12)は、全面に濃緑色の釉薬が掛かる。このほか、図示しなかったが包含層からは緑釉陶器片5点が出土している。

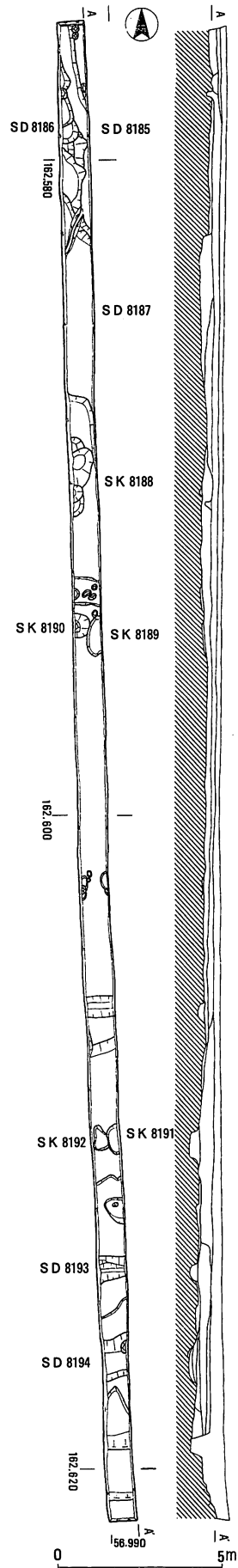
ハ まとめ 今回の調査では、方格地割の鈴池西・同東区画の区画間道路に想定され、また調査区の南端では方格地割南辺の東西道路に関連する遺構が確認されることが期待されたが、鈴池西・同東区画の区画間道路の路面と考えられる位置で、道路関連施設は確認できなかった。また、方格地割南辺の東西道路に関連する遺構も検出はできなかった。この道路については、今回の調査区より南に位置すると考えられる。史跡南辺部は調査が少ないため未解明な点が多く、今後の資料の蓄積が待たれる。

(西村美幸)



第9図 第128-3次調査 遺物実測図(1:4)

SK8189: 1 SK8190: 2 SD8185: 3・4
SD8186: 5~8 SD8187: 9・10 包含層: 11・12

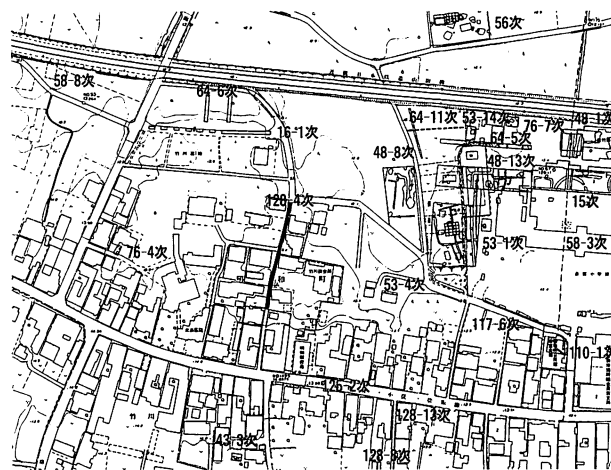


第8図 第128-3次調査 遺構実測図

(1:200)

5 第128-4次調査（6ACK）

調査場所 多気郡明和町竹川字東裏地内
原因 道路改修工事
調査期間 平成12年2月1日～2月24日
調査面積 80m²



第10図 第128-4次調査区 調査区位置図(1:5,000)

- 1) はじめに 今回の調査は史跡南部、旧参宮街道沿いの住宅密集地の町道側溝が老朽化したため、これを付け替える現状変更等許可申請により実施した。
周辺の調査例は乏しく、当該地周辺についてはほとんどデータの無い状態だが、100mほど東の齋宮小学校周辺の調査では飛鳥～奈良時代の周溝遺構や、平安時代後期～末期を中心とした建物・区画溝などが検出されている。

2) 調査概要

- イ 調査区 調査は、総延長約120mにつき幅約0.7mの調査区を設定した。側溝は北に向かって流下させるため、調査区北端で現地表面から約0.7mまで調査し、南にいくにしたがって、工事範囲内の深度で調査を終了した。

その結果、調査区全域で遺構面まで当該現状変更の影響が及ばないことが確認され、10m～20mおきに調査区断面の撮影・計測をするに止めた。

- ロ 遺物包含層 調査区北端から20m付近まで、地表面から0.3m～0.4mの深さで黒ボク状の土壌からなる遺物包含層が最大で厚さ約0.2m確認されたが、遺物は土師器小片がごくわずかにみられたにすぎない。

遺構検出面は、周辺の調査例は乏しいものの、さらに0.2m程度下にあるものと推定されるが、その他の調査区の大半では、近世以降の整地層や攪乱層のみみられたのみである。

- ハ まとめ 今回の調査では、遺構・遺物は確認できなかったが、部分的には遺物包含層が残っている状況や周辺の調査の例などから、近世の整地層の下から遺構が発見される可能性は残されているとみられる。
(大川勝宏)

6 第128-5次調査（6AEP）

調査場所 多気郡明和町齋宮字御館2975-1他
原因 史跡内管理用資材置場の整地
調査期間 平成12年1月24日～2月9日
調査面積 452m²

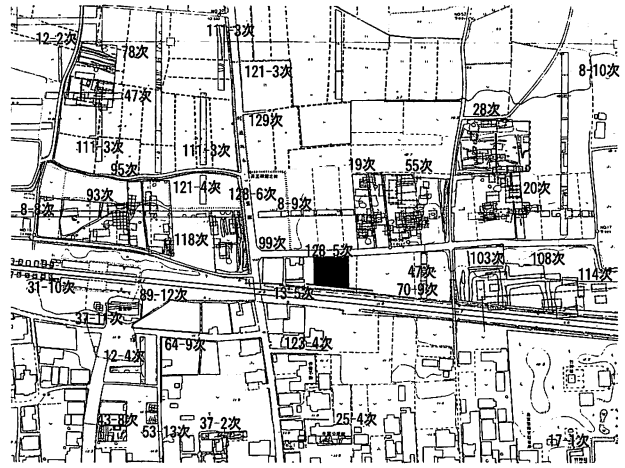
- 1) はじめに 今回の調査は、方格地割の北から2列目で東から5列目の区画にあたる御館区画と

その南の牛葉西区を区画する区画施設（溝・道路）が想定される地点に位置している。御館区画では昭和53年度の第19次調査や昭和59年度の第55次調査で平安時代初期の二面庇大型掘立柱建物などの規則的な配置をもつ建物が確認されており、斎宮寮の中院地区に比定されている。

また、御館区画西の区画は、4区画が一つの大きな区画となり、南部は、中央部に比べ一段高い。平成3年度の第93次調査、平成4年度の第95次調査、平成5年度の第99次調査、平成9年度の第118次調査で計画調査を行った。

これらの調査結果から当該地区においても奈良時代後期から平安時代末期にいたるまで掘立柱建物が建てられていたことが判明している。

周辺での区画施設は、牛葉東区画の東西・南北方向の交差点付近が平成5年度の第103次調査で明らかにされている。



第11図 第128-5次調査区 調査区位置図(1:5,000)

2) 調査概要

イ 遺構

調査地は、方格子地割の区画施設である道路及び南北両側溝推定地で東西約24m、南北約20mの調査区を設定して実施した。

調査の結果、東西及び南北方向の溝と溝に挟まれた道路遺構を確認し、奈良時代の溝2条・道路遺構1路、平安時代の溝5条・道路遺構1路とこれらに伴う風倒木状の落ち込みや樹木の根痕程度の小穴を検出した。また、近現代の耕作に伴うと考えられる耕作溝を3条ほど確認した。

奈良時代

S F 8200とその南北両側溝S D 8197・8201で東西方向に区画されている。S D 8197は、調査区の北端で確認したものであり、S F 8200の北溝であり、調査区西端から調査区東端まで長さ約24mを検出した。S D 8197は、北肩を後出のS D 8196に削平されている。最大幅1.5m、深さ約0.3mで断面形は丸みをもつU字状をなしている。S D 8201は、調査区の南部で確認したものであり、調査区西端から東へ約11.5m確認したが、調査区東部では認められない。幅0.9m～1.1m、深さ約0.15mの規模をもつ溝である。この地点でS D 8201は、少なくとも約12m以上は途切れていたものと考えられ、溝の南に想定される牛葉西区画における北側の通路の可能性もある。S D 8197・8201ともに、斎宮跡方格子地割の基準軸である北から西へ約4度振る方位に則り、これに直交する方向となっている。

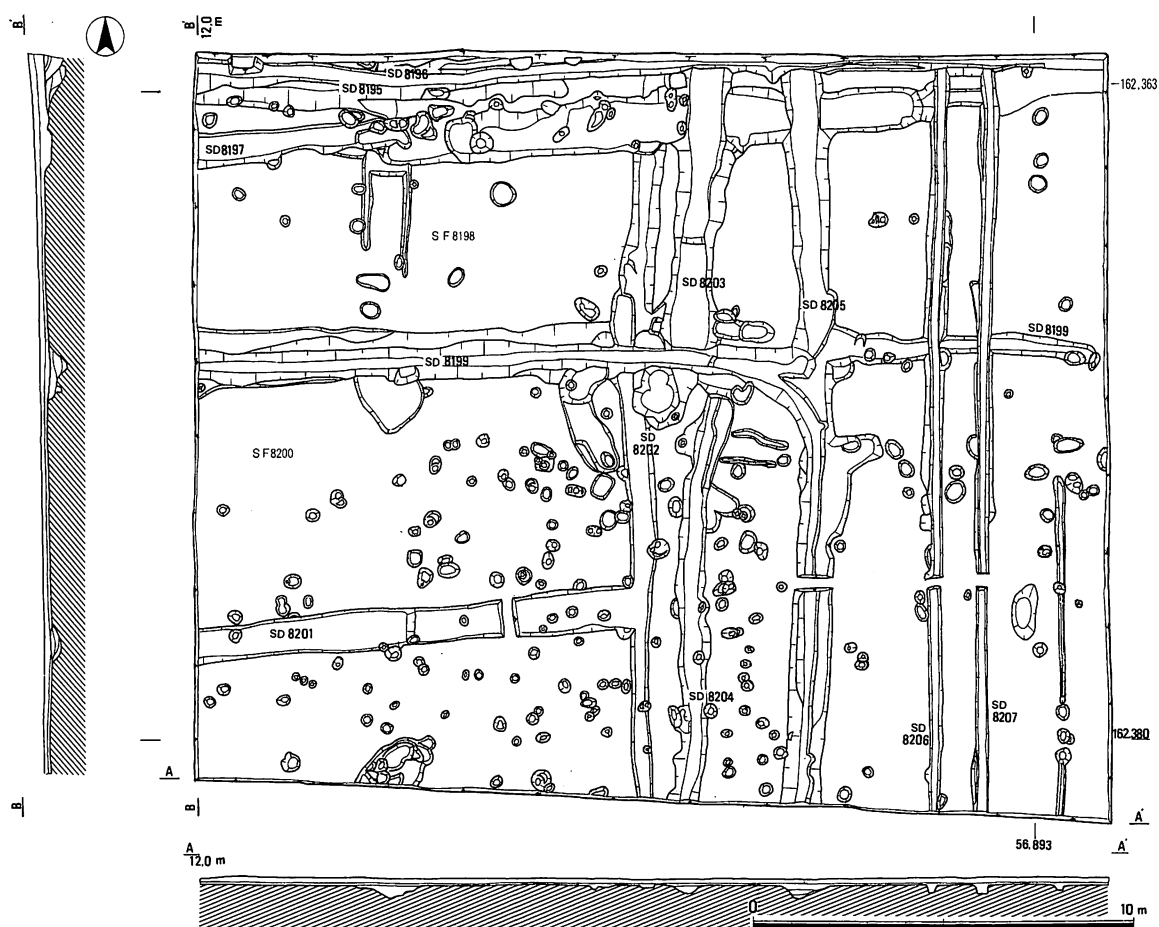
S D 8197とS D 8201に挟まれたS F 8200は、溝芯々の距離が13.3m前後であり、道路幅は最大約11mと想定される。検出した道路面は黄橙色から橙色粘土層の地山面となっており、当時の道路面は流出しているものと考えられ、道路遺構としての痕跡は確認できない。ただ、道路上には建物・廃棄土坑等の遺構が存在しないことをもって、消極的な根拠としてあげることができる。S D 8197・8201ともに、黒褐色砂質土（通称黒ボク）を埋土としており、S D 8201周辺の小穴等に同質の黒ボクを埋土するものが多いことから、埋没時期の同時代性を示すとともに、低木の樹木等の存在を想起さ

せる。牛葉西区画内は、S D8201から内側約4m以内は、区画施設として低木或は垣のような施設以外の施設を想定することは困難である。

平安時代 調査区北端でS D8195・8196を長さ24m検出したが、溝の北半は調査区外に広がっている。S D8196は、S D8195を同一場所で掘り返したものであり、埋没時期に若干の時期差が認められる。S D8195は、推定上幅1.6m・溝底幅0.2m・深さ1.1m、S D8196は、推定上幅2m・深さ1mで、ともに溝断面形をV字状とし、黒褐色から暗褐色粘質土を埋土とする。S D8195から南に約8m南に離れて、S D8199が並走する。S D8199は、調査区中央部を東西に延びる溝であり、上幅約2m・下幅0.2m・深さ約0.9mで断面がV字状となり、S D8195と形状・埋土とも酷似している。S D8195・8196及びS D8199は、調査区東部で南北溝S D8202～8205と重複関係にあるが、南北溝のいずれよりも先行する。

S D8195とS D8199に挟まれた帯状の空間は、道路遺構として捉えることもでき、S F8198として把握している。ただ、道路面として遺構は未確認である。なお、S D8195とS D8199の芯々間の距離は、約7.8mであり、道路幅は6.2mほどの規模となる。

S D8202からS D8205は、南北方向に延びる溝群であり、東西方向の溝に後出する。S D8202は、幅0.7m・深さ0.1mの断面箱型の浅い溝である。S D8203は、幅1.0m～1.2m・深さ0.3m～0.5mの断面箱型の溝である。S D8204は、幅0.6m～0.9m・深さ約0.3mで、断面がU字状をなす。S D8205は、幅約1.1m・深さ0.3m～0.4mで、断面がU字状をなしている。S D8203・8204は、調査区中央部で途切れるが、S D8202



第12図 第128-5次調査 遺構実測図 (1 : 200)

とS D8205は、調査区内においては南北方向に途切れることなく認められる。

近現代 調査区東部において検出した南北方向のS D8206・8207であり、幅0.3m～0.6m、深さ0.1m～0.2mで垂直に掘り込まれており、施肥のための耕作溝と判断される。

その他 溝以外にも土坑状の浅い落込み等を確認しているが、人為的な遺構とは認めがたい。

口遺物 整理箱で9箱と少なく、出土遺物の大半は溝出土の遺物である。遺物は、奈良時代の土師器杯・皿・甕、須恵器、平安時代の土師器杯・皿・高杯脚部、鎌倉時代の山茶碗等である。特殊遺物としては、緑釉陶器3片・石硯1片・山茶碗の墨書土器1点、土錘1点がある。

S D8197 土師器杯（1～2）、須恵器杯（5）が出土している。土師器杯（1）は、推定口径14cmで、口縁部が直線的にやや外に開くもので、口縁端部は丸い。底部外面をヘラケズリするb手法で調整される。杯（2）は、推定口径13cmで、器壁は薄く、凹凸が目立つ。口縁部は全体に丸みをもち、端部が直立気味に立ち上がり、内傾する端面をもつ。口縁部及び底部をヨコナデ調整するe手法で調整する。

須恵器杯（5）は、推定口径12.3cm、器高4.1cm、でわずかに内弯する口縁部は、ほぼ直線的に立ち上がり、端部は先細りとなる。高台は、安定した断面方形をなし、内側で接地する。

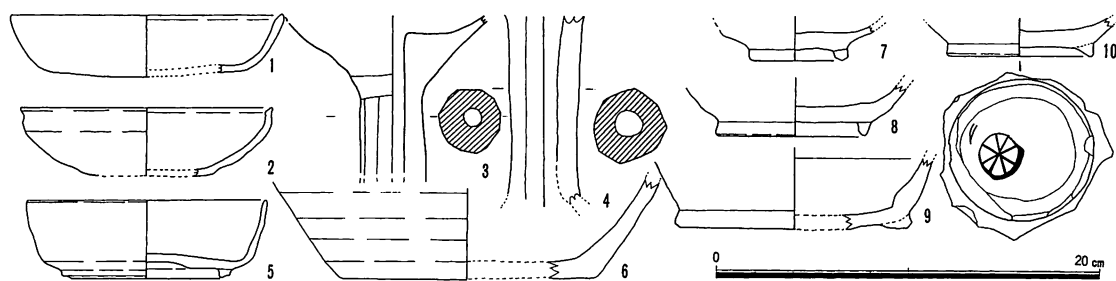
S D8204 土師器高杯（3・4）の脚部が2点出土している。脚部の面取りは、（3）が14面、（4）で9面となり断面が多面体となる。（3）の脚部先端は小さいが、脚柱状部に粘土塊を貼付けた後、柱状部とともに穿孔している。調整は荒く、白色を呈する。

S D8205 須恵器壺（6）、山茶碗の底部（7～9）が出土している。山茶碗は、高台径5.2cm～7.8cmの大小があるが、ともに直立し、接地部が角張る。

ハ まとめ 第128-5次調査区は、当初想定したように齋宮跡方格地割の区画施設である道路・側溝を確認することができた。溝芯々間の距離は、約13.3mであり29.5cmを基準尺と考えれば、当該地区における方格地割の区画溝は45尺=13.275mをもって計画されたと考えられる。

S D8197からは奈良時代後期の土師器・須恵器が出土しており、黒褐色砂質土（黒ボク）を埋土としていることは、他の地区でも奈良時代後期に造営整備された方格地割の区画施設及び掘立柱建物の埋没状況とよく似た状況にある。区画施設埋没は、S D8205の土師器高杯が平安時代後期に属することから、この時期を下限と考えている。その後、S D8195・8199を側溝とする東西道路が設置されているので、遅くともこの時期まで区画施設の存続を認める可能性も残している。

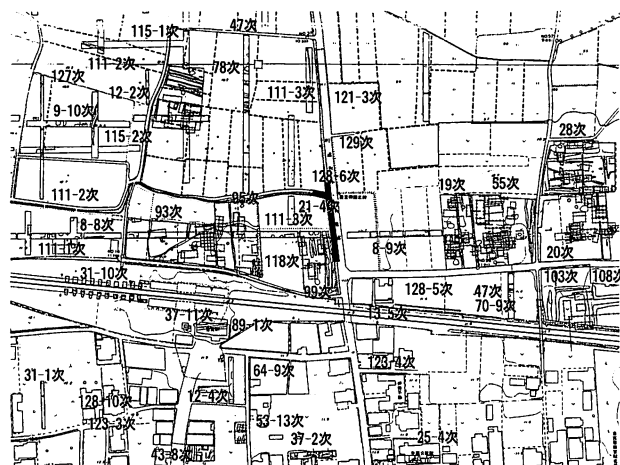
（駒田利治、宇都宮英治、大西瞳）



第13図 第128-5次調査 遺物実測図（S D8195：10 S D8197：1, 2, 5 S D8204：3, 4 S D8205：6～9）

7 第128-6次調査 (6ADN)

調査場所 多気郡明和町斎宮字内山地内
 原因 上水道管理設工事
 調査期間 平成11年8月2日～3日
 調査面積 27m²



第14図 第128-6次調査 調査区位置図 (1 : 5,000)

- 1) はじめに 今回の調査は、史跡斎宮跡歴史ロマン再生事業の一貫として建設されるいつきのみや歴史体験館へ引き込む水道口径が既存のものからでは不足するために、新規にφ100mmの水道管を埋設する史跡現状変更等許可申請に基づいて実施した。

周辺では、今回の調査地に西接して平成5年度に第99次調査が実施されており、平安時代初期から末期のおびただしい数の掘立柱建物を検出している。

2) 調査概要

調査の範囲

調査は当該工事の総延長約329mのうち、これまでの周辺の調査で工事掘削が遺構面に達するおそれのある南端約40m分と、西に枝分かれする約10m分を対象とした。

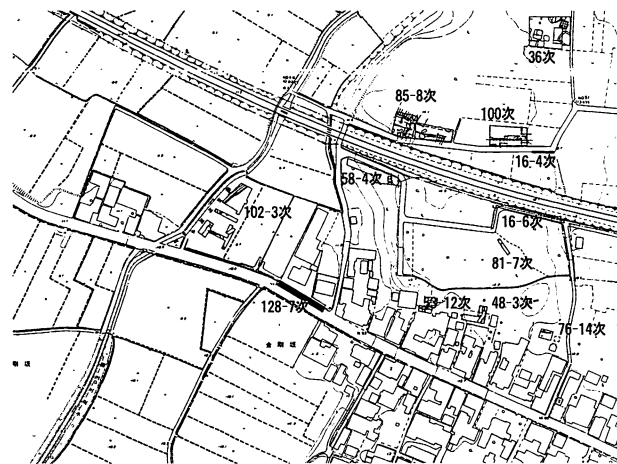
調査は、現町道路面から幅約0.6m、工事掘削の及ぶ深さ約0.75mまで行ったが、この範囲では予想に反してほとんど遺構検出面に達せず、ごく一部を除いて町道路盤盛土造成層の中に掘削の範囲が収まり、遺構・遺物はみられなかったため、調査範囲内で定点的に埋土断面の撮影・計測を行うに止めた。

3) まとめ

この町道の東側でも昭和50年度の第8-9次調査の結果から地形的には東に向かって徐々に傾斜している事が窺われるが、遺物包含層もほとんどみられなかった事から、町道造成時にも工事削平を受けている可能性が考えられる。 (大川勝宏)

8 第128-7次調査 (6AAQ)

調査場所 多気郡明和町竹川字花園地内
 原因 既設側溝の改修
 調査期間 平成12年3月9日
 調査面積 20m²



第15図 第128-7次調査 調査区位置図 (1 : 5,000)

- 1) はじめに 本調査は、史跡南西部の県道側溝が老朽化したため、これを付け替える史跡現状変更等許可申請に伴い実施した。申請地は祓川段丘崖が沖積平野に落ち込む地形変換点付近で、西側約50mの地点で平成5年度に第

102-3 調査が実施され、奈良時代～平安時代の溝などが見つかった。

2) 調査概要

調査の範囲

今回の調査は、当該工事の総延長約32mにつき、幅約0.6mの調査区を設定した。今回設置する側溝は、既設の側溝を撤去した後その旧側溝の堀形内に新規の側溝を設置するため、当該施工にかかる範囲を調査の対象とした。調査区は東半で現況地表面からの深さ約0.7m、西半で約0.95mとなっている。

調査の結果、今回の現状変更は旧側溝の埋設土の中に収まる事が判明し、遺構検出面および遺物包含層は検出されなかった。また、調査区の東約25m分では調査区の壁に県道の旧擁壁の石垣が露出し、県道以北の部分はすべて盛土によるものである事が判明した。遺物は全く出土しなかった。

3) ま と め

本調査地周辺は従来から調査例が乏しく、史跡の実態が判明していない部分である。今後も遺構の状況を正確に把握するためにも調査例の蓄積が待たれる。

(大川勝宏)

9 第128-8次調査 (6ACA)

調査場所 多気郡明和町竹川字南裏250
原因 個人住宅の増築
調査期間 平成11年10月14日
調査面積 20m²

1) はじめに

今回の調査は、旧参宮街道沿いで、個人住宅の建替えを行う史跡現状変更等許可申請に伴って実施した。周辺では調査区の南方で第76-9次調査(昭和63年度)が行われ、平安時代末期の土坑や溝が確認されている。



第16図 第128-8次調査区 調査区位置図(1:5,000)

2) 調査概要

調査は、住宅(東西約9.4m、南北約9.8m)の基礎掘削が行われる幅約0.6mの範囲を行った。調査の結果、掘削は盛土の範囲内にとどまったため、それ以上の掘削は行わずに、確認写真を撮って調査を終了した。また、当初予定では浄化槽設置も計画されていたが、既設のものを使用することになり現状変更を行わなかった。

(西村美幸)

付篇1 史跡現状変更等許可申請

平成11年度中の史跡現状変更等許可申請は、37件提出された。このうち発掘調査を行ったのは、史跡の実態解明のための計画発掘調査が2件、個人や公共事業の現状変更に伴うものが8件あった。

そのほかの27件については、宅地敷地内における個人住宅の建設など小規模であったり、工事が簡易で地下遺構に影響を及ぼさないものである。なお、基礎掘削工事にあたっては齋宮歴史博物館並びに明和町教育委員会職員の立会いのもと実施している。

11年度の申請の内容は、一覧表のとおりであり、これらの申請を（A）個人等から申請されるもの、（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴うもの、（C）史跡環境整備および維持管理等に伴うもの、（D）史跡の実態解明のための計画発掘調査を実施するに当たっての申請に分けることができる。

（A）個人等による申請

個人等による申請は20件あった。そのうち保存管理計画における土地利用区分で事前の発掘調査が必要となる第三種保存地区に該当する申請は、個人住宅の建設や農業用施設など6件ある。（内2件は以前に発掘調査済みの箇所である。）本年度の調査は、農業用倉庫建設（第128-1次調査）と個人住宅の新築（第128-2次及び8次調査）の3件実施した。個人専用の進入路造成工事の調査は次年度に送ることになった。

他の14件については、個人住宅や倉庫等の新築や撤去で土地利用区分の第四種保存地区にあたり、工事立会い等の条件付許可により、史跡に影響を及ぼすことなく施工している。

ただし、個人住宅等に付属する合併浄化槽の設置部分については、立会い調査を実施している。今年度の該当は7件あり、その結果報告は付篇2に掲載している。

（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴う申請

この申請は12件の提出があった。その内容は、既設道路の舗装や側溝等の改修が5件、電柱等の新設や建替が3件、上水道管の埋設が2件と旧陸軍の倉庫撤去である。この内調査が対象となったものは、上水道管理設に伴う第128-6次調査と側溝新設及び改修に伴う第128-3、4、7次調査の4件あり、水道管理設に伴う調査を1件次年度に送ったほかは、工事立会いで着工している。

（C）史跡環境整備および維持管理等に伴う申請

史跡の整備及び活用に伴う申請は3件あった。その内容は、案内標識の設置のほか砂利広場及び管理用資材置き場の整地に伴うものである。管理用資材置き場については事前の発掘調査（第128-5次調査）を実施している。

（D）計画発掘調査のための申請

これは、三重県教育委員会が調査主体となり、齋宮歴史博物館が担当して実施しているもので2件の申請が提出され、1,446㎡が調査された。これらの内容については齋宮歴史博物館から別途調査概報が刊行されている。

（中野敦夫）

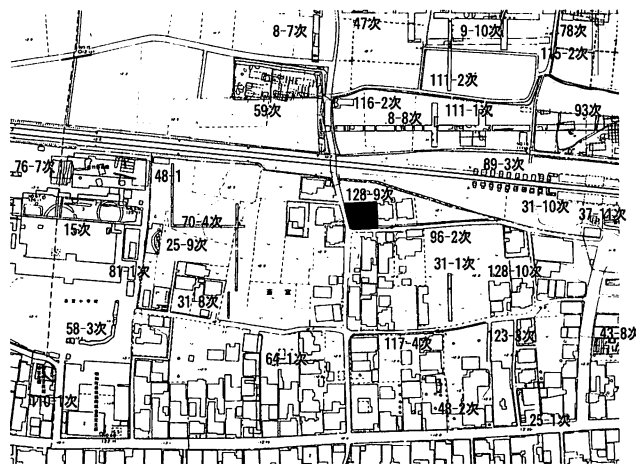
第2表 平成11年度 現状変更等許可申請一覧表

申請地	種別	申請者	変更内容	申請日	許可日	変更面積	区分	備考
1 齋宮字上園3112他3筆	D	三重県教育委員会	発掘(計画)調査	11. 4. 26	11. 5. 11	1,330㎡	1	第127次調査
2 齋宮字塚山内地	B	日本電信電話㈱	電話柱建替	11. 4. 8	11. 4. 30	3本	2	
3 齋宮字篠林3217-3	A	渡辺 和洋	農業用物置の建設	11. 4. 20	11. 5. 14	52.18㎡	3	
4 齋宮字中西2737-2	A	服部 幸生	農業用倉庫建設	11. 4. 28	12. 1. 26	92.74㎡	3	第128-1次調査
5 齋宮字篠林3221-1 齋宮字篠林3222-1	A	宇田 和人	個人住宅の新築	11. 4. 30	11. 5. 14	47.25㎡	4	
6 齋宮字楽殿2874-2	A	岡山 郁夫	個人住宅の増築	11. 5. 13	11. 6. 16	20.64㎡	4	
7 齋宮字東裏内地	B	明和町(建設課)	道路改修工事	11. 5. 31	11. 6. 30	L=120m	3	第128-4次調査
8 齋宮字篠林内地	B	日本電信電話㈱	電話柱の移設と建替	11. 6. 8	11. 6. 24	1本	1	
9 齋宮字下園・御館内地	B	明和町(上下水道課)	上水道管埋設工事	11. 6. 15	11. 7. 23	L=329m	1	第128-6次調査
10 齋宮字塚山内地	B・C	明和町(建設課)	インターロッキング布設	11. 5. 31	11. 6. 30	L=80m	1	
11 齋宮字御館2969-1	D	三重県教育委員会	発掘(計画)調査	11. 7. 7	11. 7. 30	166.0㎡	1	第129次調査
12 齋宮字西前沖2632-1	A	鈴木 正美	個人住宅の増築	11. 7. 5	11. 8. 5	19.49㎡	4	立会い調査 (第128-11次調査)
13 齋宮字内山3038-8、9	A	山本 繁樹	個人住宅の新築	11. 7. 19	11. 8. 12	108.07㎡	4	立会い調査 (第128-10次調査)
14 齋宮字西前沖2604-34	A	長谷 栄雄	個人住宅の新築	11. 8. 10	11. 9. 10	71.21㎡	4	
15 齋宮字牛葉・中西・笛川内地	B	中部電力(株)松阪営業所	電柱の移設と建替	11. 8. 19	11. 9. 10	新設6本 建替3本	3	
16 齋宮字出在家3230-5	B	中部電力(株)松阪営業所	電柱の移設と建替	11. 8. 23	11. 9. 10	1本	4	
17 竹川字南裏250	A	中村 純也 中村 和代	個人住宅の増改築	11. 8. 26	11. 10. 21	94.44㎡	4	第128-8次調査
18 齋宮字篠林3221-1 齋宮字篠林3222-1	A	宇田 和人	浄化槽の設置	11. 8. 30	11. 9. 20	1基	4	立会い調査 (第128-12次調査)
19 齋宮字西加座2773-1	A	細井建設	側溝の清掃と側溝蓋の設置	11. 8. 31	11. 10. 4	L=8.5m	4	
20 齋宮字木葉山96-8	A	小倉 良久	個人住宅の建て替え	11. 9. 20	11. 10. 15	79.21㎡	4	立会い調査 (第128-15次調査)
21 齋宮字御館2975-1 齋宮字御館2976-3	C	明和町教育委員会 (齋宮跡課)	史跡内管理用資材置場の整地	11. 10. 15	11. 11. 11	640㎡	1	第128-5次調査
22 竹川字東裏273	A	辻 孝雄	倉庫の新築	11. 11. 1	11. 11. 15	一棟	4	
23 齋宮字塚山・内山・篠林内地	C	三重県(松阪地方県民局生活環境部)	案内標識の設置	11. 10. 26	11. 11. 24	5カ所	3	
24 齋宮字御館2969-1、4	C	齋宮歴史博物館	砂利広場の造成	11. 8. 20	11. 8. 24	1160.8㎡	1	
25 竹川字中垣内地	B	明和町(建設課)	町道のオーバーレイ	11. 12. 2	11. 12. 16	L=100m	2	
26 齋宮字鈴池内地	B	明和町(建設課)	側溝の新設	11. 12. 2	12. 7. 4	L=48m	3	第128-3次調査
27 竹川字南裏250	B	明和町(上下水道課)	上水道管布設	11. 12. 10	12. 1. 26	L=12m	3	第131-2次調査
28 竹川字南裏253	A	高木 若素	個人住宅の改築等	11. 12. 13	12. 1. 26	71.22㎡	4	立会い調査 (第128-13次調査)
29 齋宮字塚山3337-1	A	平成商事株式会社	擁壁の設置、側溝の新設等工事	11. 12. 15	12. 1. 26	側溝 L=83.9m 擁壁L=118m	3	
30 齋宮字古里3270-4	A	北薮 和明	個人住宅の新築	11. 12. 27	12. 2. 1	76.0㎡	3	第128-2次調査
31 齋宮字東前沖2505-2	B	(株)国有財産管理調査センター 名古屋事務所	倉庫の撤去	11. 12. 27	12. 1. 17	1棟	4	
32 齋宮字苅干2861-2	A	齋王自治会 自治会長 鈴木 金一	合併浄化槽の設置	12. 1. 24	12. 3. 27	1基	4	立会い調査 (第128-14次調査)
33 竹川字花園内地	B	三重県(松阪地方県民局 建設部)	既設側溝の改修	12. 2. 9	12. 2. 22	L=32m	3	第128-7次調査
34 齋宮字鈴池568	A	森下 喜弘	個人住宅の新築	12. 2. 16	12. 3. 2	102.0㎡	4	
35 竹川字祓戸741	A	辻 房義	進入路造成工事	12. 2. 23	12. 8. 22	L=25.5m	3	第131-1次調査
36 齋宮字東前沖2494-2	A	森野 勇	個人住宅の解体	12. 3. 14	12. 3. 30	1棟	4	
37 齋宮字内山3037-11	A	田中 正敏	車庫の新築	12. 3. 14	12. 3. 28	36.35㎡	4	

付篇2 立会い調査

第128-9次調査（6ADO-A）

調査場所 多気郡明和町斎宮字内山3068-13
原因 個人住宅の新築
調査期間 平成11年7月29日
調査面積 3㎡



第17図 第128-9次調査 調査区位置図（1：5,000）

1) はじめに 本調査は、個人住宅の新築工事に伴い、浄化槽を新設する部分について、事前の立会い調査を行ったものである。

周辺は従来から発掘調査例の乏しい地域ではあるが、近鉄線の北側では第8-7次調査の南北トレンチや第59次調査が実施されており、平安時代中期以降の遺構が卓越する地域である事が知られている。

調査の範囲は浄化槽埋設部分の東西約2.3m、南北約1.3mである。

2) 調査概要

イ 遺構 基本的な層位は現地表から0.5mまで住宅地造成のための盛土、そこから約0.4mの厚さで、旧表土が約0.1mかつての盛土（赤褐色粘土）があり、地表から約1.0mで地山（黄褐色粘土）に達したが、遺構は確認されなかった。

遺物包含層もみられず、地山の検出面が地表から深かった事から、この部分の遺構面はすでに削平されているものとみられる。

ロ 遺物 遺物はまったく出土していない。

ハ まとめ 今回の調査では遺構・遺物は確認できなかったが、調査例の乏しいこのエリアの解明のためにも、今後ともこうした調査の蓄積が必要であろう。（大川勝宏）

第128-10次調査（6ADO-R）

調査場所 多気郡明和町斎宮字内山3038-8,9
原因 個人住宅の新築
調査期間 平成11年9月20日
調査面積 4㎡

1) はじめに 今回の調査は、個人住宅の新築工事に伴い、浄化槽を新設する部分について、事前の発掘調査を行ったものである。調査区は、第128-9次調査区の南東170mほどの所に位置する。

2) 調査概要

イ 遺構

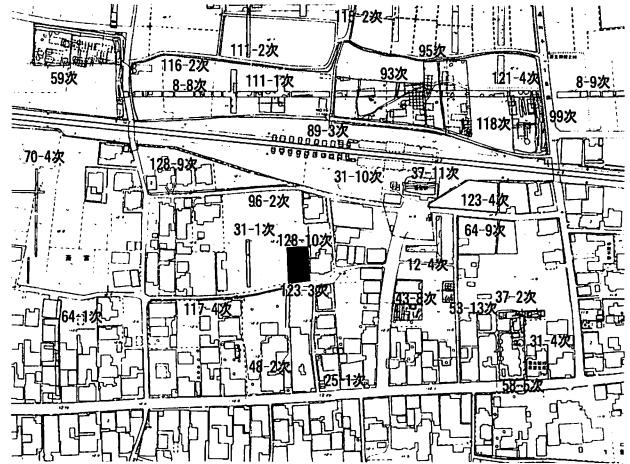
調査の範囲は、浄化槽埋設部分の東西約2.4m、南北約1.2mである。基本的な層位は、現地表面から約0.15m厚さの表土があり、その下に約0.2m厚さの包含層（灰褐色土）、現地表面から約0.35mで地山（橙色粘土）に達する。遺構は径0.5mと径約0.2mのピット各1個を確認した。

ロ 遺物

径約0.5mのピットから土師器の細片が少量出土している。

ハ まとめ

今回の調査では、遺構・遺物ともに少量しか確認できなかったが、遺構面は削平されておらず、周辺の調査による解明が期待される。
(西村美幸)



第18図 第128-10次調査 調査区位置図（1：5,000）

第128-11次調査（6AFE-F）

調査場所

多気郡明和町斎宮字西前沖2632-1

原因

個人住宅の増築

調査期間

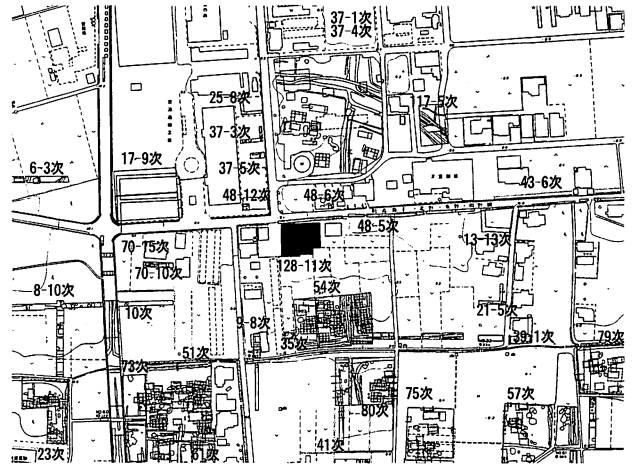
平成11年10月8日

調査面積

5㎡

1) はじめに

今回の調査は、個人住宅の新築工事に伴い、浄化槽を新設する部分について、事前の発掘調査を行ったものである。調査の範囲は、浄化槽埋設部分の東西約1.6m、南北約2.9mである。



第19図 第128-11次調査 調査区位置図（1：5,000）

2) 調査概要

イ 遺構

現在の地表面から0.5~0.7mで遺構検出面に達し、設定した調査区の中央に南北約2.2m、遺構面からの深さ約0.25mの略方形で、底部が平坦な土坑SK8028を検出した。埋土は地山粒混じりのにぶい黄褐色土で、遺構はさらに調査区の外へ続いている。

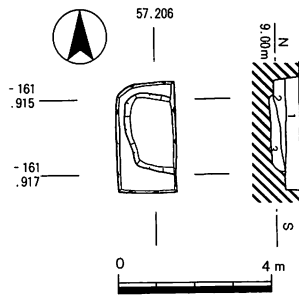
ロ 遺物

整理箱1箱分の土器が出土した。土師器杯・皿・甕・鉢、志摩式製塩土器片、須恵器壺・甕・杯Bないしは盤、灰釉陶器碗・段皿が出土した。斎宮跡編年で平安時代前I期から前II期に相当するとみられる。

ハ まとめ

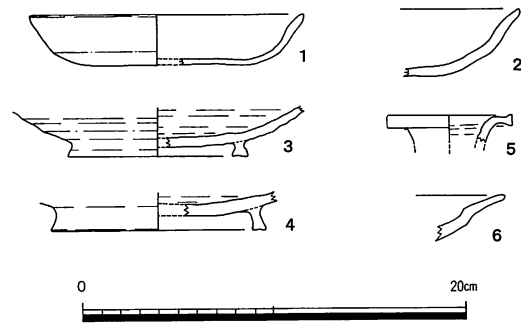
今回の調査では、きわめて小規模なものながら比較的多量の遺物を含む遺構を検出した。本調査地は現在推定されている斎宮跡の方格地割の北側に位置するが、平安時代前期の遺構がこの部分まで分布していることをあらためて確認できた。小規模ながら今回の調査の意義は大きいものと思われる。

(大川勝宏)



- 1 盛土層
- 2 にぶい黄褐色壤土(包含量: 10Y R 5 / 3)
- 3 黄色土ブロック含むにぶい黄褐色土(10Y R 4 / 3)

第20図 第128-11次調査 SK8028実測図(1:200)

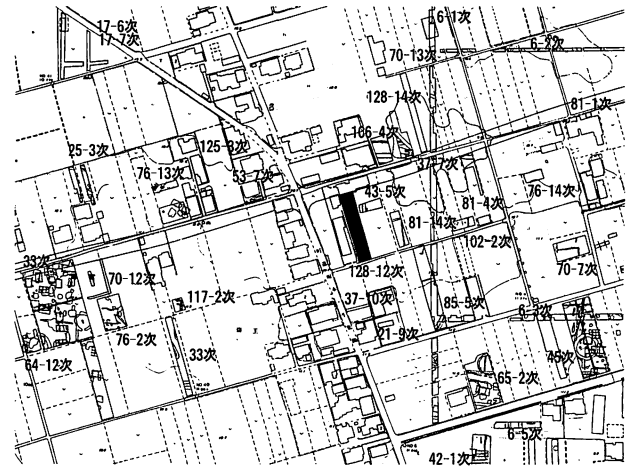


第21図 第128-11次調査 遺物実測図 SK8208

第128-12次調査 (6 A E D - C)

調査場所 多気郡明和町斎宮字篠林3221-1, 3222-1
 原因 浄化槽の設置
 調査期間 平成11年10月25日
 調査面積 9 m²

1) はじめに 今回の調査は、個人住宅の新築に伴い、浄化槽を新築する部分について、事前の発掘調査を行ったものである。調査地の東側では第43-5次調査(昭和57年度)により時期不明の溝などが確認されているが、あまり史跡の実態が確認されていない。



第22図 第128-12次調査 調査区位置図(1:5,000)

2) 調査概要

イ 遺構 調査は、浄化槽設置のため、掘削を行う範囲で、東西約1.2m、南北約2.5mにわたって行った。調査区の基本的な層位は、第I層が住宅造成のための盛土(厚さ約0.7m)第II層が旧表土(厚さ約0.35m~0.45m)、第III層が黄色粘土の地山である。地山の深さは現地表から北側で約1.2m、南側で約1.0mとなる。遺構は確認できなかった。旧表土直下で地山が確認されており、遺物包含層もないことからこの部分の遺構面はすでに削平されていると考えられる。

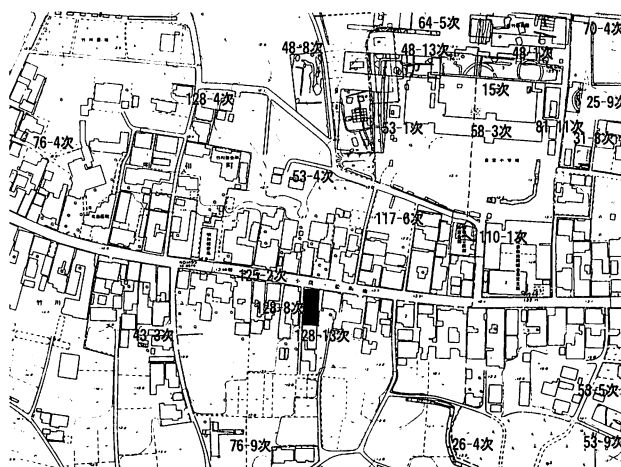
ロ 遺物 遺物はまったく出土していない。

ハ まとめ 今回の調査では遺構・遺物とも確認できなかったが、この地区の解明のため、こうした調査の蓄積が望まれる。

(西村美幸)

第128-13次調査（6ACQ）

調査場所 多気郡明和町竹川字南裏253
 原因 個人住宅の改築等
 調査期間 平成12年1月6日
 調査面積 6㎡



第23図 第128-13次調査 調査区位置図（1：5,000）

1) はじめに 今回の調査は、個人住宅の新築に伴い、浄化槽を新築する部分について、事前の発掘調査を行ったものである。調査地は、第128-8次調査の調査区とは道路を隔てて隣接する。

2) 調査概要 調査は、浄化槽設置のため、掘削を行う範囲で、東西1.7m、南北3.7m

にわたって行った。調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。調査区の層序は、第I層が置土（厚さ約0.3m）、第II層が旧表土である灰褐色粘質土（厚さ約0.3m）、第III層が包含層である黒褐色粘質土（厚さ約0.3m）、第IV層が褐色粘質土の地山である。地山の深さは現地表から約0.9mである。遺構は、まったく確認されなかった。

口 遺物 遺物は、包含層から鎌倉時代と考えられる土師器の小片が出土したのみであった。

ハ まとめ 今回の調査区周辺は、住宅の密集地区で面的な調査が困難な場所である。今後の調査の蓄積が期待される。

（西村美幸）

第128-14次調査（6ACQ）

調査場所 多気郡明和町斎宮字刈干2861,2862
 原因 合併浄化槽の設置
 調査期間 平成12年2月21日
 調査面積 18㎡



第24図 第128-14次調査 調査区位置図（1：5,000）

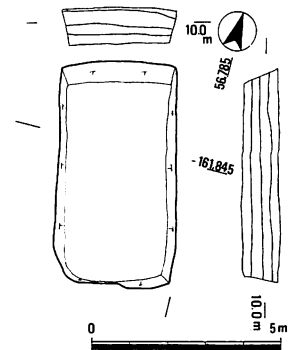
1) はじめに 今回の調査は、「歴史の道」沿いに位置する斎王地区の集会所において、集会所増築に伴う合併浄化槽の設置を行う史跡現状変更等許可申請に伴って実施した。周辺では、今回調査箇所の西側及び南側で昭和56年度に第37-7次調査が行われ、鎌倉時代の大溝S D2505ほかの溝が確認されている。今回の調査区はこの調査区に隣接する。

2) 調査概要

イ 遺構

調査は、浄化槽の掘方に合わせ、東西幅3m、南北長さ6mにわたって実施した。現地表面の標高は10.4mである。埋土は、第Ⅰ・Ⅱ層：公民館造成時の置き土である山砂、第Ⅲ層：黒褐色粘質土の旧耕作土、第Ⅳ層：にぶい黄色の粘質土、第Ⅴ層：浅黄色粘土の地山である。地山面は、現地表面から約1mの標高約9.6mである。遺構・遺物は確認されなかった。

なお、地山以下の層序は、第Ⅴ層：地山が厚さ0.6m、第Ⅵ層：浅黄橙粘土層に鉄分が沈着した層が厚さ約0.6mあり、第Ⅶ層：褐灰色砂礫層となる。



第25図 第128-14次調査 調査区実測図 (1:200)

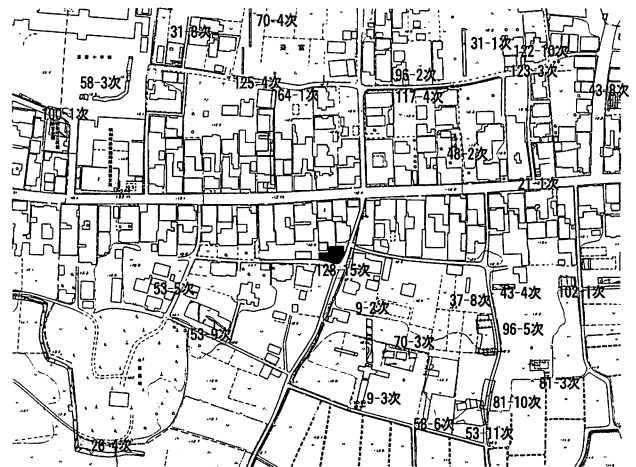
3) まとめ

今回の調査では、遺構・遺物は認められなかったが、浄化槽掘削に伴い、当該地区の地山以下の層序を確認することができた。

(西村美幸)

第128-15次調査 (6ACS-G)

調査場所 多気郡明和町斎宮字木葉山96-8
 原因 個人住宅の建替え
 調査期間 平成12年2月25日
 調査面積 4㎡



第26図 第128-15次調査 調査区位置図 (1:5,000)

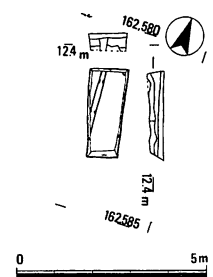
1) はじめに

今回の申請は、旧参宮街道から南へ約50mの場所にある個人の敷地で、個人住宅の建替えを行うものである。建物の基礎は、地下遺構に影響を与える恐れがなく、工事立会いとし、浄化槽掘削部分について、事前の発掘調査を行った。

2) 調査概要

調査は、浄化槽の掘方に合わせ、東西幅0.8m~2m、南北長さ2.4mにわたって実施した。現況地盤の標高は、12.7mである。埋土は、第Ⅰ層：住宅造成に伴う置き土である細礫、第Ⅱ層：黒褐色粘質土の包含層、第Ⅲ層：第Ⅱ層より少し暗い黒褐色粘質土の包含層、第Ⅴ層：黄色粘土の地山である。

遺構は、北西隅でピット1点を確認した。ピットからの遺物の出土はなかったが、包含層から土師器小片と山茶椀片が出土した。



第27図 第128-15次調査 遺構実測図 (1:200)

(西村美幸)

第3表 第128次調査 遺物(土器)観察表

128-3次 遺物観察表

No	出土遺構	器種	法 量	調整・技法の特徴	胎 土	焼成	色 調	残 存 度	備 考	登録番号
1	S K8189	土師器 杯	(口径) 11.2cm	口縁ヨコナデ、内・外面オサエ・ナデ	やや粗	良好	内：浅黄橙 7.5Y R8/6 外：浅黄橙	50%		R13
2	S K8190	土師器 杯	(口径) 11.4cm	口縁ヨコナデ、内面ナデ、外面オサエ・ナデ	密	良好	内：浅黄橙 7.5Y R8/6 外：浅黄橙	30%		R14
3	S D8185	土師器 台付椀	(高台径) 8.0cm	高台部ヨコナデ	密	良好	内：浅黄橙 7.5Y R8/4 外：浅黄橙	高台20%		R3
4	S D8185	灰釉陶器 椀	(高台径) 8.0cm	内・外面ロクロナデ、高台ハリツケ・ナデ	密	良好	内：灰白 2.5Y7/1 外：灰白 2.5Y7/1	高台20%		R2
5	S D8186	土師器 台付皿	(高台径) 7.0cm	高台部外面オサエ・ナデ内面ヨコナデ	やや粗	良好	内：にぶい橙 10Y R7/4 外：にぶい	高台20%	高台端部が赤化	R11
6	S D8186	土師器 小皿	(口径) 8.6cm (器高) 1.9cm	口縁ヨコナデ、内・外面ナデ	密	良好	内：灰白 10Y R8/2 外：灰白 10Y R8/2	20%		R5
7	S D8186	灰釉陶器 椀	(口径) 13.8cm	内・外面ロクロナデ、灰釉漬け掛け	密	良好	素地：灰白 釉：灰白 2.5Y7/1 2.5Y7/1	20%		R4
8	S D8186	白磁 椀	(口径) 17.0cm	口縁・内面ロクロナデ、外面ロクロズリ、白磁施釉	精緻	良好	素地：灰白 釉：灰白 N7/1 10Y7/1	小片		R12
9	S D8187	土師器 小皿	(口径) 9.8cm (器高) 1.6cm	口縁ヨコナデ、内・外面オサエ・ナデ	密	良好	内：浅黄橙 外：浅黄橙 10Y R8/3 10Y R8/3	20%	外面に粘土接合痕跡残る	R6
10	S D8187	灰釉陶器 椀	(高台径) 7.1cm	内・外面ロクロナデ、高台ハリツケ・ナデ	密	良好	内：灰白 2.5Y8/1 外：灰白 2.5Y8/1	高台50%		R8
11	包含層	土師器 台付椀	(口径) 14.8cm (器高) 5.2cm (高台径) 6.8cm	口縁ヨコナデ、内面オサエ・ナデ、外面ナデ、高台ハリツケ・ナデ	密	良好	内：橙 ～浅黄橙 7.5Y R8/4 外：橙 2.5Y R6/6 ～浅黄橙	20%		R16
12	包含層	緑釉陶器 椀	(高台径) 6.0cm	内面ロクロナデ、外面ロクロズリ、高台ハリツケ・ナデ、全面に緑釉施釉	密	軟質	素地：灰白 釉：青色 2.5Y8/1 837	高台30%		R17

第128-5次調査

No	出土遺構	器種	法 量	調整・技法の特徴	胎 土	焼成	色 調	残 存 度	備 考	登録番号
1	S D8197	土師器 杯	(口径) 14cm (器高) 3.3cm	口縁部ヨコナデ 底部外へラケズリ	密	良好	内：橙 外：橙 7.5Y R8/8 5Y r6/6	10%		R3
2	S D8197	土師器 杯	(口径) 13.0cm (器高) 3.6cm	口縁部ヨコナデ 底部不明	密	良好	内：明赤褐 外：明赤褐 5Y R5/6 2.5Y R5/8	25%		R2
3	S D8204	土師器 高杯		脚部面取14面へラケズリ	密	良好	内：灰白 外：灰白 7.5Y R8/2 7.5Y R8/2	脚部のみ		R4
4	S D8204	土師器 高杯		脚部面取9面へラケズリ	密	良好	内：橙 外：灰白 5Y R7/6 5Y R7/6	脚部のみ		R5
5	S D8197	須恵器 杯	(口径) 12.3cm (器高) 4.1cm (高台径) 7.5cm	口縁部ヨコナデ、高台ハリツケ、底部外面糸切痕、同内面ロクロナデ	微細砂	良好	内：灰黄褐 外：灰黄褐 10Y R5/2 10Y R5/2	口縁部10% 高台50%		R1
6	S D8205	須恵器 壺	(底径) 20.2cm	ロクロナデ	密	良好	内：にぶい黄 2.5Y R6/3 外：にぶい黄 2.5Y R6/3	10%		R9
7	S D8205	陶器 山茶碗	(高台径) 5.2cm (高台高) 0.6cm	高台ハリツケ	砂粒	良好	内：灰オリーブ 外：灰オリーブ 5Y R6/2 5Y R5/2	底部 完形		R6
8	S D8205	陶器 山茶碗	(高台径) 7.8cm (高台高) 0.8cm	高台ハリツケ	砂粒	良好	内：灰オリーブ 外：灰オリーブ 5Y R6/2 5Y R5/2	20%		R8
9	S D8205	陶器 山茶碗	(高台径) 12cm (高台高) 0.8cm	高台ハリツケ、高台と底部外面は同一の面で接地	砂粒	良好	内：灰 外：灰 7.5Y R6/1 7.5Y R5/1	20%		R7
10	S D8195	陶器 山茶碗	(高台径) 7.4cm (高台高) 0.7cm	高台ハリツケ	砂粒	良好	内：灰白 外：灰白 5Y7/1 5Y7/1	20%		R10

第128-10次調査

No	出土遺構	器種	法 量	調整・技法の特徴	胎 土	焼成	色 調	残 存 度	備 考	登録番号
1	S K8208	土師器 杯	(口径) 14.3cm	外面ヨコナデ、オサエナデ、内面ナデ	密	良好	内：にぶい黄橙 6/4～明赤褐 外：〃 10Y R 2.5Y R5/6	30%		
2	S K8208	土師器 杯		外面ヨコナデ、内面ナデ	密	良好	内：明赤褐 外：明赤褐 5Y5/6 5Y5/6	10%		
3	S K8208	須恵器 壺	(高台径) 9.4cm	外面ロクロズリ、ロクロナデ、内面ロクロナデ・ナデ	密	良好	内：灰 外：灰 10Y6/1 10Y6/1	高台50%		
4	S K8208	須恵器 杯	(高台径)11.2cm	外面ロクロズリ、内面ロクロナデ	密	良好	内：灰白 外：灰白 7.5Y7/1 7.5Y7/1	高台25%		
5	S K8208	須恵器 小型壺	(口径) 6.4cm	内・外面ヨコナデ、内面ナデ	密	良好	内：灰 外：灰 5Y5/1 5Y5/1	口径30%		
6	S K8208	灰釉陶器 段皿		内外面ロクロナデ、ヨコナデ	密	良好	内：灰白 外：灰オリーブ 5Y7/1 5Y6/2	口径5%		

報 告 書 抄 録

ふりがな	しせきさいくうあと へいせい11ねんど げんじょうへんこうきんきゅうはつくつちようさほうこくしよ
書名	史跡 齋宮跡 平成 11 年度 現状変更緊急発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	三重県多気郡明和町 齋宮跡埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	17
編著者名	駒田利治・上村安生・大川勝宏・西村美幸・中野敦夫・瀬田敏彦・宇都宮英治
編集機関	齋宮歴史博物館・明和町教育委員会
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503番地 TEL 0596-52-3800
発行年月日	2001年3月23日

ふりがな 所収遺跡名	しよざいち 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さいくうあと 齋宮跡	な きぐんめい わちほうさいくうほか 多気郡明和町齋宮他	24442	210	331~332	1336~1337			
第128-1次調査	齋宮字鍛冶山2737-2					19990608~990618	32	農業用倉庫建設
第128-2次調査	齋宮字古里3270-4					20000117~000121	144	個人住宅新築
第128-3次調査	齋宮字鈴池地内					20000118~000201	41	側溝新設
第128-4次調査	竹川字東裏地内					20000201~000224	80	道路改修
第128-5次調査	齋宮2975-1他					20000124~000209	452	管理資材置場整地
第128-6次調査	齋宮字内山地内					19990802~990803	27	上水道管理設
第128-7次調査	竹川字花園地内					20000309	20	側溝改修
第128-8次調査	竹川字南裏250					19991014	20	個人住宅増改築
第128-9次調査	齋宮字内山3068-13					19990729	3	個人住宅改築
第128-10次調査	齋宮字内山3038-8,9					19990920	4	個人住宅新築
第128-11次調査	齋宮字西前沖2632-1					19991008	5	個人住宅増築
第128-12次調査	齋宮字篠林3221-1他					19991025	3	個人住宅浄化槽
第128-13次調査	竹川字南裏253					20000106	6	個人住宅改築等
第128-14次調査	齋宮字苅干2861,2862					20000221	18	合併浄化槽
第128-15次調査	齋宮字木葉山96-8					20001225	4	個人住宅建替

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
第128-1次調査	宮殿	奈良	内郭柵列、溝	土師器	内郭柵列 S A6790の延長	
第128-2次調査		飛鳥~奈良	溝			
第128-3次調査		平安~鎌倉	溝、土坑	土師器、白磁、墨書山茶碗		
第128-4次調査			包含層			
第128-5次調査		奈良~鎌倉	方格地割区画道路、側溝	土師器、須恵器、墨書山茶碗		
第128-6次調査			包含層			
第128-7次調査			包含層			
第128-8次調査			整地層			
第128-9次調査		不明	なし			なし
第128-10次調査		"	小穴			土師器
第128-11次調査		平安前期	土坑			土師器、須恵器、製塩土器
第128-12次調査		不明	なし			なし
第128-13次調査		鎌倉	なし			土師器
第128-14次調査		不明	なし			なし
第128-15次調査		奈良~鎌倉	小穴			土師器、山茶碗

版 图



調査区全景（西から）



SA6790 SD8183



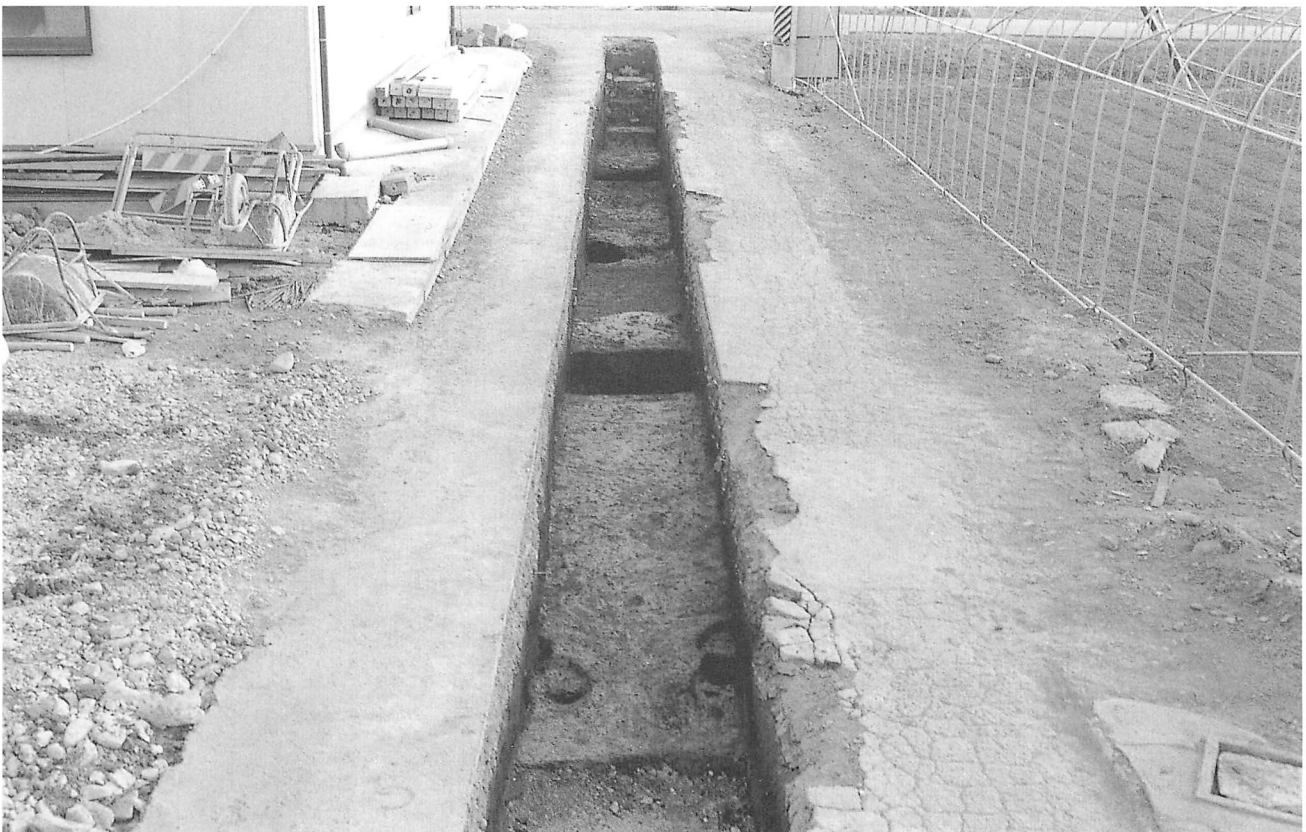
調査区全景（西から）



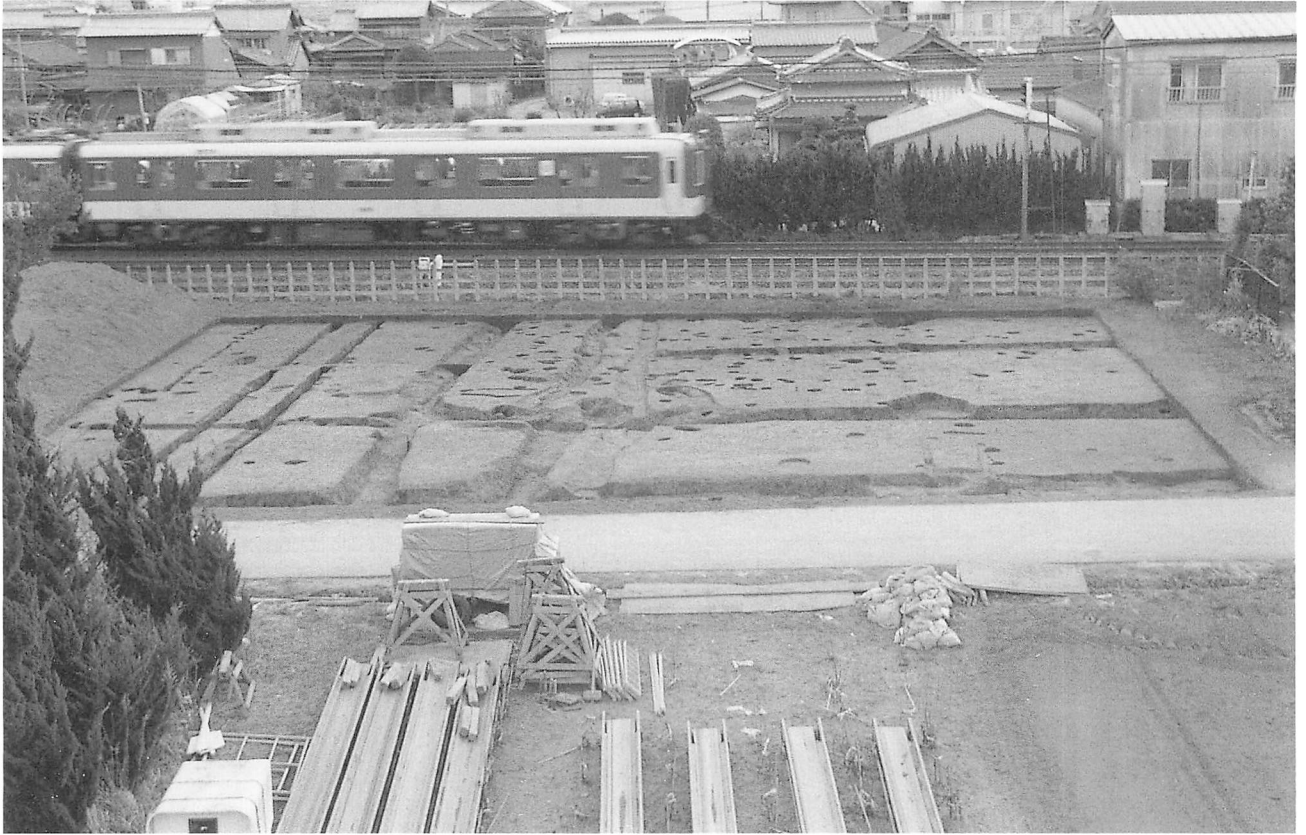
調査区近景（東から）



調査区北部全景（南から）



調査区南部全景（北から）



調査区全景（北から）



調査区全景（東から）

史 跡 齋 宮 跡

平成11年度

現状変更緊急発掘調査報告

平成13(2001)年3月23日

編 集 齋宮歴史博物館
明和町教育委員会

発 行 明和町教育委員会

印 刷 光出版印刷株式会社
